

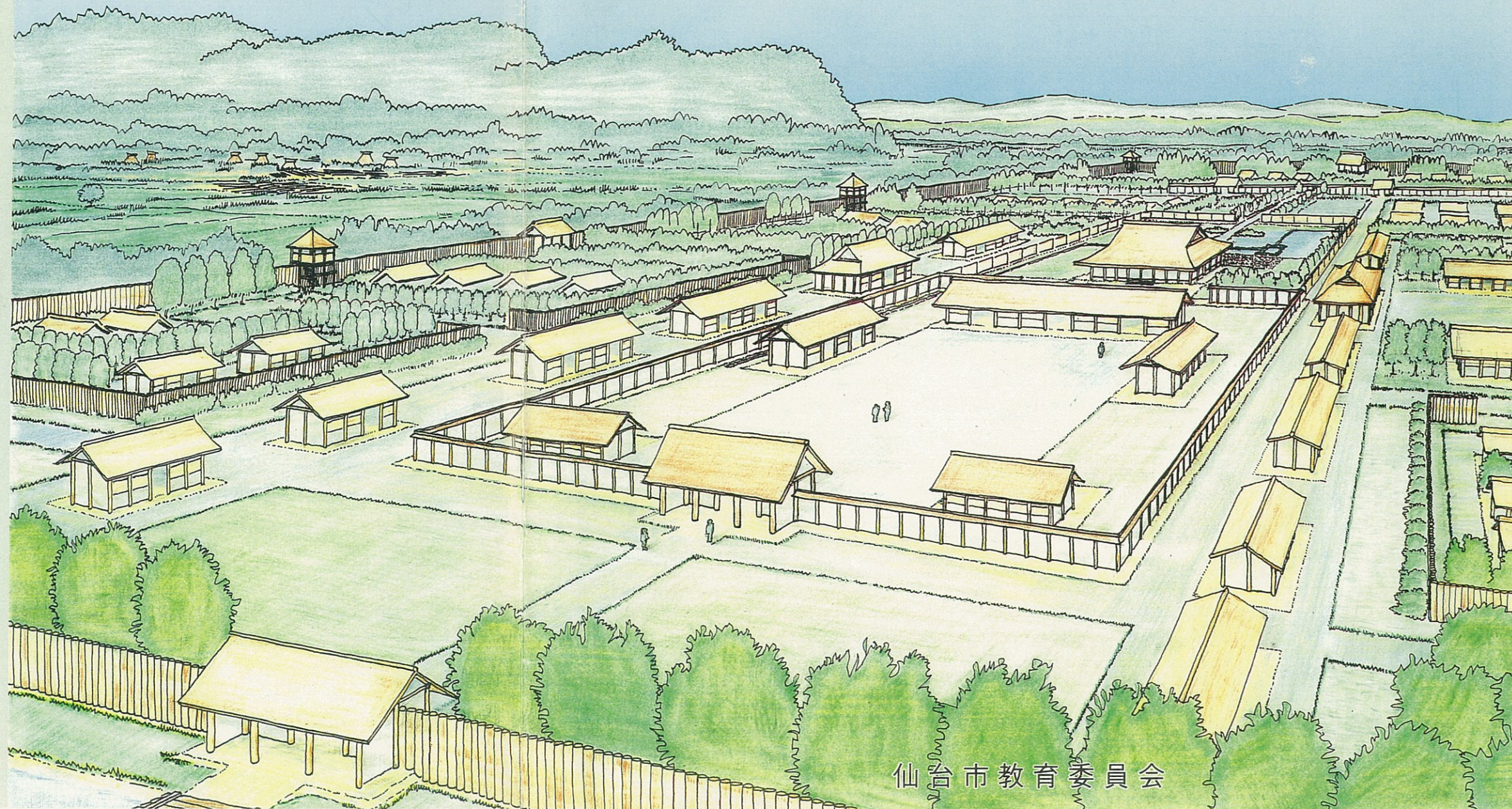
発

掘



郡山

郡山遺跡に埋もれた歴史を掘る



第27回文化財展パンフレット
発行 仙台市教育委員会 文化財課
仙台市青葉区国分町三丁目7-1
(TEL 022-214-8893)
発行日 平成9年10月
印刷 (株)共新精版印刷

仙台市教育委員会

郡山遺跡とその時代

645年の大化改新を契機として、中央政府は全国の土地や人民を直接支配する、律令制という新しい制度を導入しました。これは日本を60余の国に分け、さらに郡・郷という行政単位毎に人々を戸籍に編入し、税を徴収する制度で、国・郡には国衙・郡衙と呼ばれる役所が置かれました。東北地方南半は陸奥国と呼ばれ、宮城・山形県南部までは郡が置かれたと考えられますが、それ以北の地域は郡が置かれず、蝦夷と呼ばれる人々の住む地として残されていました。律令政府は、この地域を支配下に取り込むため、建郡に先だって城・柵の施設を置き、体制を整備した上で郡を設置していったものと考えられます。仙台の地は初期の陸奥国では辺境に位置し、領域拡大のために郡山に官衙が置かれました。郡山遺跡のⅡ期官衙は、外郭施設は材木列による典型的な城柵のスタイルをとり、内部には政務や儀式をとり行う政庁を擁し、陸奥国衙としての役割を担っていたと考えられています。

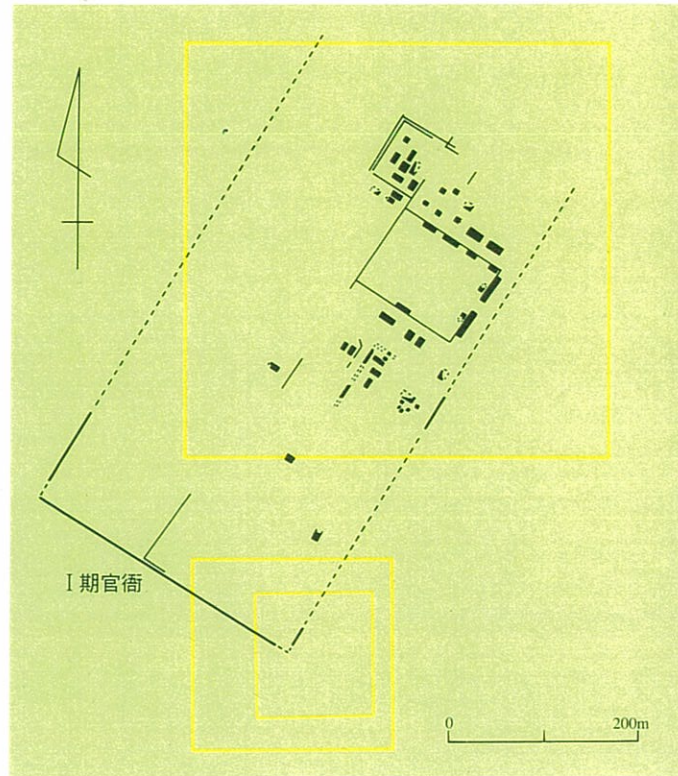
広がりとうようす

初めにつくられた役所—Ⅰ期官衙



外側を区画する材木堀跡

郡山に最初に置かれた役所は、真北から約30~40度東に振れた方向で建てられました。広さは東西300m、南北600m以上あり、材木堀によって囲まれていました。役所内のように、板堀と建物によって囲まれた中枢部と考えられる一画のほか、事務棟、倉庫、工房などの建物が、役割ごとにまとまって構成されています。この役所は7世紀中頃につくられたと考えられ、全国でも最古級の官衙跡です。



Ⅰ期官衙の遺構配置図



中枢部の建物跡

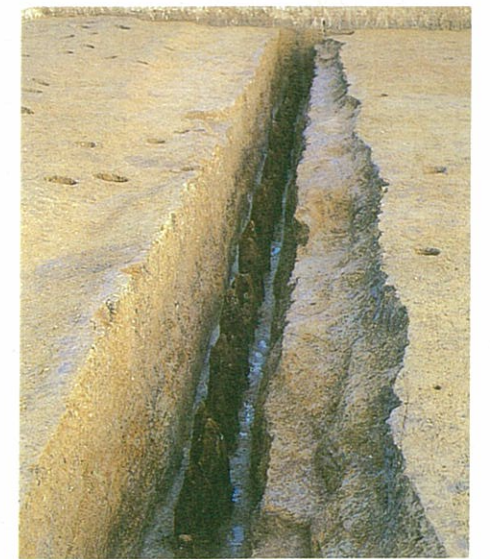


倉庫跡

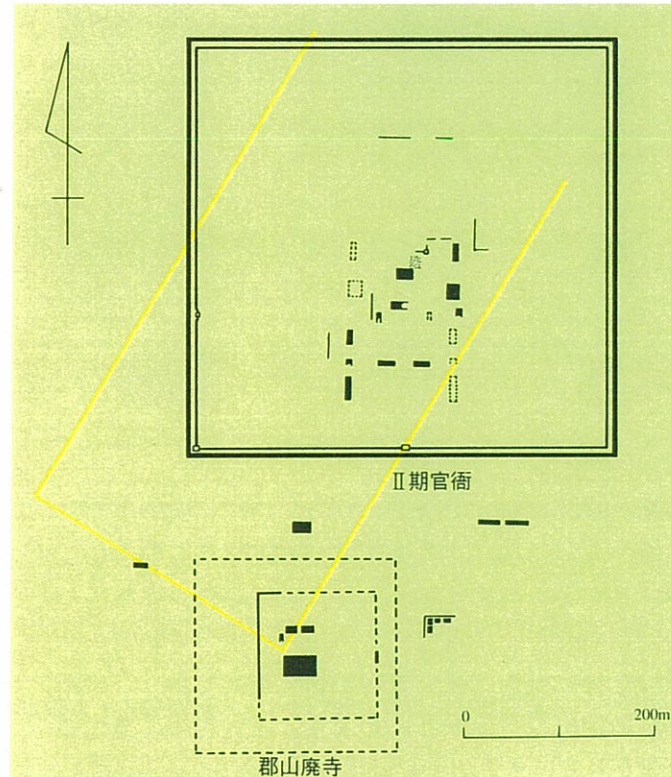
建てかえられた役所—Ⅱ期官衙

7世紀末頃、数十年使われてきた建物はとり壊され、真北方向を基準にした役所がつけられました。規模は当時の尺度で一辺四町(約428m)の正方形で、太いクリ材による材木堀と大溝とで囲まれていました。材木堀の南辺中央からは大規模な南門跡が、また、南西隅と西辺からは槽状建物跡が見つっています。

重要な政務や儀式をとり行った政庁からは正殿跡や石敷き、石組池などが見つっています。こういった施設を挟んで東西両側には南北方向の建物が列状に立ち並び、政庁の構造を考える上で興味深いものといえます。これらの建物の一部は一度焼失していますが、配置を変えて再建されたこともわかってきました。なお、この役所は8世紀の初めにはその役割を終えたようです。



外側を区画する材木堀跡



Ⅱ期官衙と郡山廃寺の遺構配置図



石組池



正殿跡の東側で見つかった大規模な建物跡



僧房跡

役所に付属する寺院—郡山廃寺

Ⅱ期官衙の南方には、本格的な伽藍を持つ付属寺院がつけられました。この寺院はⅡ期官衙と同様に真北方向を基準に建てられ、寺院の範囲はおおよそ二町(214m)四方と推定されます。寺院の中枢部には、講堂の基壇跡や金堂を取り囲むと考えられる溝跡、僧房跡が見つっています。また、中枢部を区画していた材木堀やそれに取り付く門跡も確認されています。

郡山遺跡の役割

郡山遺跡に役所が置かれた7世紀中頃は、宮城県北部から北は政府の支配が直接及ばない地域で、ここに住む人々は蝦夷と呼ばれました。この地域を律令体制の中に取り込み、他の地域と同じように行政的な支配をするためにつくられた東北地方特有の官衙が多賀城をはじめとする城柵です。

城柵の構造は、全体を築地土塀や材木塀などの外郭施設で囲み、内部には政庁を中心に建物群が配されています。郡山遺跡Ⅱ期官衙は正殿を中心とする政庁と、材木塀と大溝とからなる外郭施設が四町四方に巡ることから、城柵のひとつと考えられます。



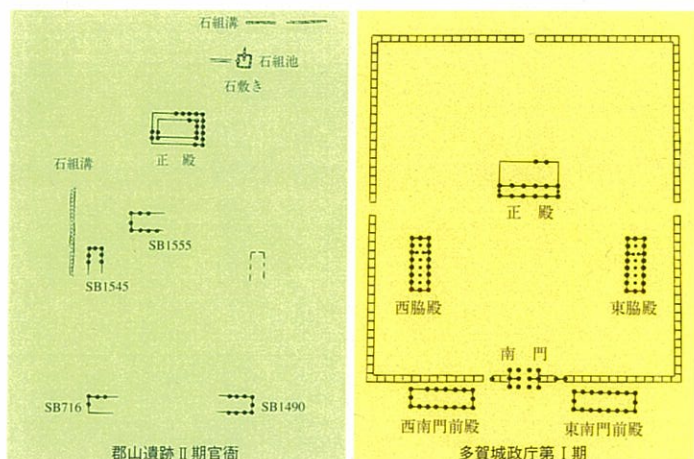
多賀城跡全景

提供：東北歴史資料館



秋田県仙北町払田柵跡の外郭施設（柵木）

提供：秋田県教育庁払田柵跡調査事務所



郡山遺跡Ⅱ期官衙

多賀城政庁第Ⅰ期

50m



奈良県明日香村石神遺跡の石組池 提供：奈良国立文化財研究所

郡山遺跡Ⅱ期官衙は、表紙の想像復元図のように政庁の北側ブロックには正殿や石組池、石敷きなどがあります。南側ブロックには東西に長い建物を中心にその両隣りに南北に長い建物、さらに南側の前面に2棟の東西に長い建物が建てられており、宮都や後の国府の中枢部と同じように左右対称に整然と配置されています。

建物配置で注目されるのは、政庁南側ブロックの建物の配置が8世紀前半に創設された多賀城の政庁第Ⅰ期のものと類似している点です。このことから、両遺跡の果たしていた機能に継続性があったことが推定されます。

また、政庁北側ブロックの石組池や石敷きと同じような遺構は、飛鳥の石神遺跡から立派な建物群とともに見つかっています。7世紀の中頃から政府は蝦夷を支配するために、服属した蝦夷を招いて飛鳥や難波の宮殿で饗宴を行ったと記録にあります。石神遺跡はこのような服属の儀式が行われた宮殿跡と考えられています。これまで石組池が地方の官衙跡で発見された例は他になく、郡山に置かれた官衙は中央に準じた儀式が催されるような重要な役割を果たしていたと推定されます。

郡山廃寺と古代寺院

郡山廃寺の中枢部では講堂跡や僧房跡が発見され、さらに金堂や塔などからなる伽藍があったと推定されます。この伽藍配置は多賀城の付属寺院である多賀城廃寺や九州におかれた大宰府の付属寺院である観世音寺と類似しています。このように整った伽藍をもつ寺院は近畿地方を除けば数が少なく、したがって郡山廃寺は極めて重要な国家施設であったと考えられます。

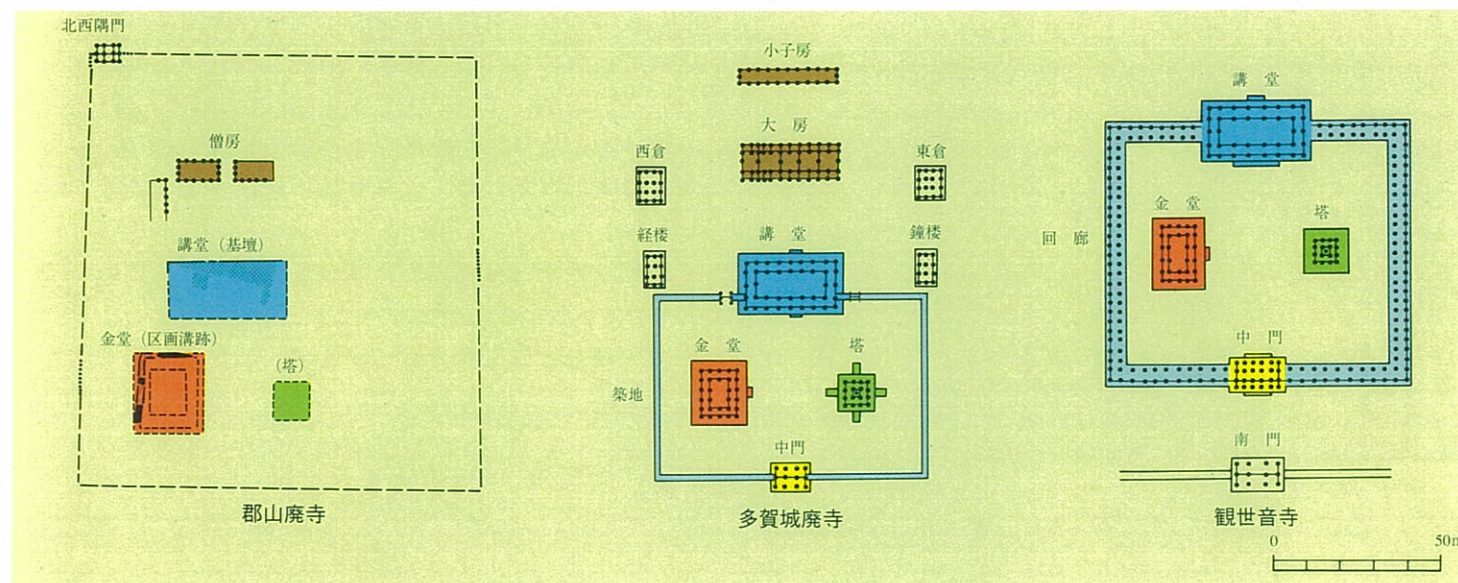
仙台平野で初めて瓦が葺かれた郡山廃寺では、「単弁蓮華文」という文様の軒丸瓦が軒先を飾りました。この軒丸瓦に類似する瓦は多賀城廃寺からも出土しています。多賀城の創建期には、郡山廃寺の軒丸瓦を原型とした「重弁蓮華文軒丸瓦」が作られます。重弁蓮華文の系統の軒丸瓦は陸奥国分寺（8世紀中頃）や胆沢城跡（9世紀初め）に引き継がれ、国府系瓦と呼ばれています。



①郡山廃寺 (7世紀末~8世紀初頭) ②多賀城跡 (8世紀前半) ③陸奥国分寺跡 (8世紀中頃) ④胆沢城跡 (9世紀初頭)

郡山廃寺を原型とする軒丸瓦の変遷

提供：東北歴史資料館 水沢市埋蔵文化財調査センター



郡山廃寺・多賀城廃寺・大宰府観世音寺の伽藍配置

官人の往来と移民

郡山遺跡では多量の遺物が出土しています。その中でⅠ期官衙から飛鳥の都で官人が使用していた土器（畿内産土器）が発見されました。畿内産土器は都以外では限られた遺跡でしか見つかっておらず、東北地方での出土例も他に数例しかありません。おそらく都から派遣された中央官人がたずさえてきたものと考えられます。一方、飛鳥の石神遺跡からは逆に東北産の土器が多数出土しています。これらのことがらは都との往来を物語っています。

このほか、関東の人々が郷里の土器を模して作った土器（関東系土器）も発見されています。関東系土器は宮城県北部からも出土しており、建郡にあたってさかんに関東から陸奥国に移民が実施されたという当時の文献の記載を裏付けています。



郡山遺跡出土の畿内産土器



郡山遺跡出土の関東系土器

調査のあゆみ



瓦の散布状況（昭和24年）

「郡山遺跡」の名は、大正2年に粘土採掘の際に漆入りの土器が発見されたことで、初めて学会に報告されました。昭和13年、瓦が出土したことで再び紹介されました。さらに昭和25年刊行の『仙台市史』において、東北大学の伊東信雄教授は、瓦が発見された場所を平安時代またはそれ以前の寺院跡、土器が発見された場所を集落跡と推定し、おのおのを「郡山古瓦出土地」、「北目古代聚落址」と報告しています。

昭和54年、最初の発掘調査で大きな建物跡とともに多くの土器や瓦が発見され、郡山遺跡は1300年の眠りから覚めました。これ以後、本格的な調査が継続して行われ、数多くの成果を上げてきました。

未来を考える



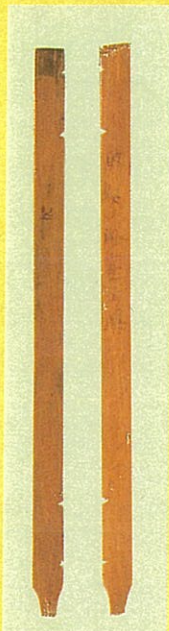
復元された払田柵跡

提供：仙北町教育委員会

最近、全国各地で遺跡を公園として保存整備することが積極的に進められています。仙台市でも「陸奥国分寺跡」、前方後円墳の「遠見塚古墳」、そして2万年前の森林跡や生活跡を発掘したままの状態で見守る「富沢遺跡保存館」など保存整備事業に力を注いできました。

さて、郡山遺跡は長期にわたる調査により、遺跡の性格とその重要性が明らかになってきました。しかし、その一方で新たな謎も生まれています。私たちはこのような壮大なスケールを誇る郡山遺跡の全容を未来に伝えていきたいと考えています。そのためにも調査の継続と歴史公園としての保存整備が望まれます。

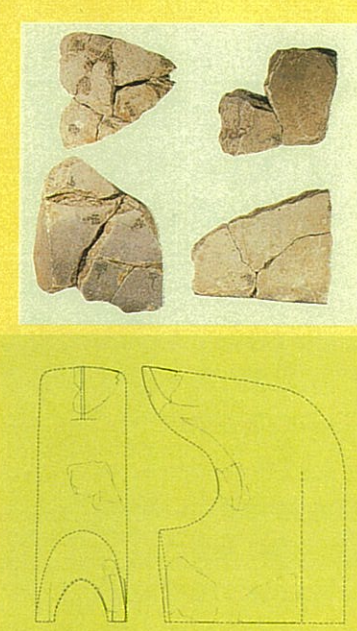
さまざまな出土遺物



定木木筒
(郡山廃寺)



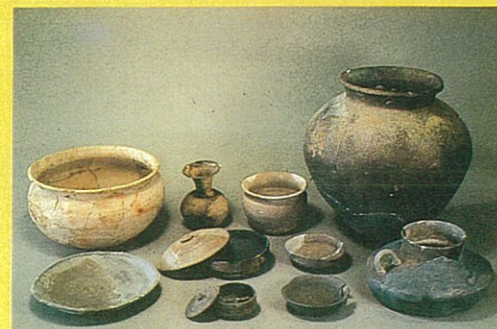
木筒「学生寺」
(郡山廃寺)



鷗尾の破片と鷗尾推定図
(郡山廃寺)



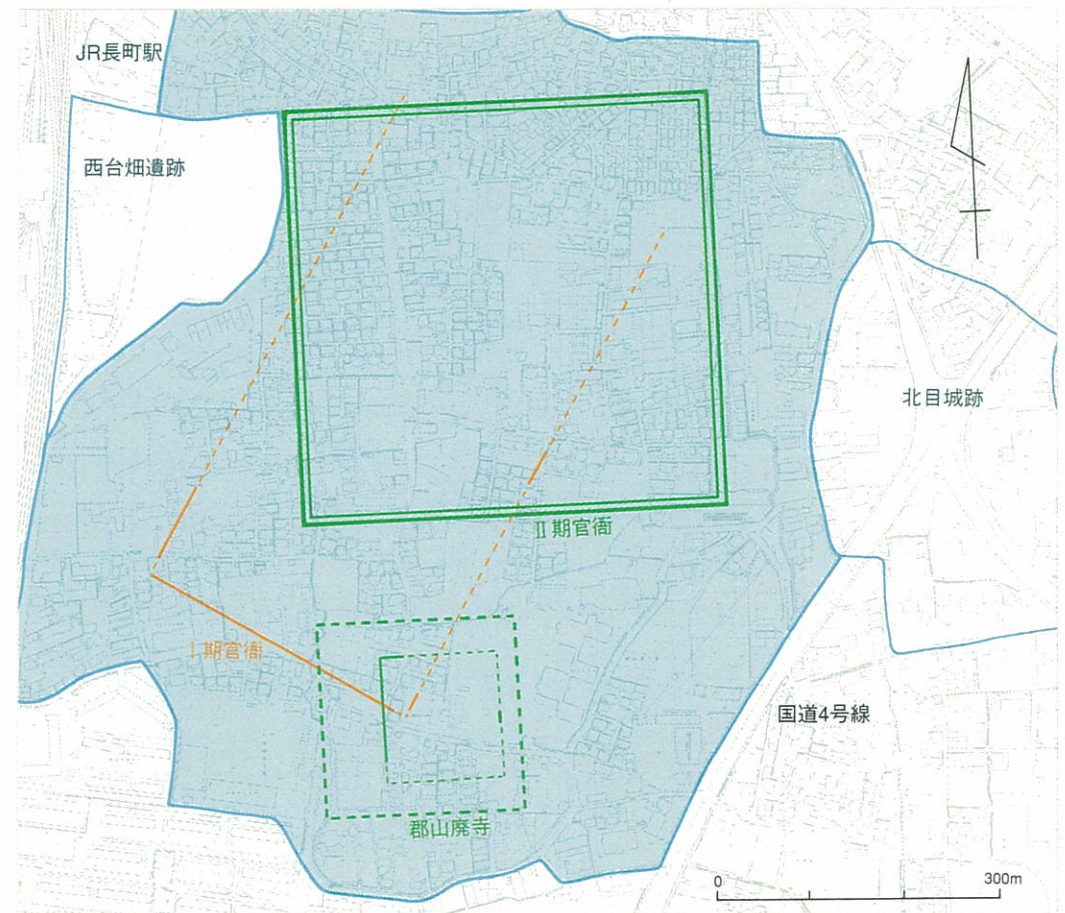
円面鏡と刀子



いろいろな形の器

平安時代	奈良時代										飛鳥時代			時代								
八〇二 一一一	七九七 一六	七九四 延暦十三 三月	七八四 延暦三 十一月	七八〇 十一	七七四 宝龜五	七七三 神龜元年	七四九 天平勝 元年	七四一 十三 二月	七三七 天平九	七二八 神龜五 元	七二四 神龜元	七二二 六 閏四月	七一八 養老二	七一五 靈龜元	七一一 元 六 五 五	七〇八 和銅元	七〇二 元 二	六九四 持統八 十一月	六七二 天武元	六四七 元 四 三	六四五 大化元	
		長岡京に都を遷す	長岡京に都を遷す				国分寺創建の詔				聖徳太子の崩逝を計る				平城京に都を遷す		大宰律令なる	藤原京に都を遷す	壬申の乱	浄足柵(新潟県)を造る	大化改新	
四月	十一月	十月	七月	三月	三月	三月	一月	四月	四月	八月	五月	五月	五月	十月	九月	九月	九月	九月	九月	九月	九月	九月
蝦夷の首領阿利利為ら投降する	陸奥国に胆沢城を造らせる	坂上田村麻呂を征夷大將軍となす	陸奥国に胆沢城を造らせる	伊治公吉麻呂、多賀城をおとす	伊治城の造営終る	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する	陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する

古代史年表



郡山遺跡地図